

分野（領域）	統合分野	科目名	在宅看護概論
単位（時間）	1 単位（15 時間）	開講時期	2 年次 前期～後期
講師名 （時間・所属）	坂井由美子（15 時間・好生館看護学院看護学科 専任教員 看護師）		
<p>&lt; 科目設定理由 &gt;</p> <p>在宅で療養する対象に対する看護実践のため、在宅看護の意義や現状、看護の特徴を理解する必要がある。</p> <p>&lt; 科目目標 &gt;</p> <p>在宅看護の位置づけや現状を学び、対象の人間らしい生活を保障するための様々な取組、人権の尊重と権利保障、看護の倫理性と社会的機能について理解する。</p> <p>&lt; 講義内容 &gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 在宅看護の歴史</li> <li>2. 地域看護・在宅看護とは</li> <li>3. 在宅看護の位置づけ</li> <li>4. 在宅看護にかかわる現状</li> <li>5. 諸外国の状況</li> <li>6. 在宅療養者の権利保障</li> <li>7. 看護の倫理性と社会的機能</li> <li>8. 在宅看護の展望と課題</li> </ol>			
<p>&lt; 講義の進め方 &gt;</p> <p>講義</p>			
<p>&lt; 受講要件 &gt;</p> <p>看護学概論、医学概論の単位を取得しておくこと。</p>			
<p>&lt; テキスト &gt;</p> <p>在宅看護論 実践をことばに NOUVELLE HIROKAWA</p>			
<p>&lt; 参考文献 &gt;</p> <p>国民衛生の動向 厚生労働統計協会</p>			
<p>&lt; 評価方法 &gt;</p> <p>講義終了後に試験で評価する。</p>			

分野（領域）	統合分野	科目名	在宅看護の基礎
単位（時間）	1 単位（30 時間）	開講時期	2 年次 後期
講師名 （時間・所属）	光野 千恵子（25 時間・九州厚生局佐賀事務所 非常勤看護師 元訪問看護師） 在宅生活サポートセンター見学・現地講義（5 時間）		
<p>&lt; 科目設定理由 &gt;</p> <p>在宅で療養している人々とその家族の療養生活を支える看護の基礎的知識を理解する必要がある。</p> <p>&lt; 科目目標 &gt;</p> <p>在宅で療養している人々とその家族を対象とした療養生活を支える看護について理解する。また、社会資源や保健医療システムの活用、関係職種との協働について理解する。</p> <p>&lt; 講義内容 &gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 在宅における看護活動</li> <li>2. 在宅看護の特徴</li> <li>3. 在宅療養者と家族</li> <li>4. 在宅看護の展開 <ul style="list-style-type: none"> <li>・事例を通じた看護過程</li> </ul> </li> <li>5. 関係職種と社会資源</li> <li>6. 在宅看護における倫理的課題とその対応</li> <li>7. 在宅生活サポートセンターの役割と概要・実際の活動 <ul style="list-style-type: none"> <li>・在宅生活サポートセンター見学</li> </ul> </li> </ol> <p style="text-align: right;">} 光野</p>			
<p>&lt; 講義の進め方 &gt;</p> <p>講義 演習～在宅生活サポートセンター見学（5 時間）</p>			
<p>&lt; 受講要件 &gt;</p> <p>なし</p>			
<p>&lt; テキスト &gt;</p> <p>在宅看護論 実践をことばに NOUVELLE HIROKAWA</p>			
<p>&lt; 参考文献 &gt;</p> <p>看護師教育のための地域看護概説 NOUVELLE HIROKAWA</p>			
<p>&lt; 評価方法 &gt;</p> <p>講義終了後、試験で評価する。 在宅生活サポートセンター見学後、レポート提出</p>			

分野（領域）	統合分野	科目名	在宅における状況・症状別看護
単位（時間）	1 単位（30 時間）	開講時期	2 年次 後期
講師名 （時間・所属）	村尾 眞治（10 時間・訪問看護ステーション Reaf くるめ 精神科認定看護師） 片桐 都茂子（4 時間・訪問看護ステーション陽だまり 看護師） 馬場 美代子（6 時間・在宅看護センター佐賀ほっこり 訪問看護認定看護師） 井手 久仁子（5 時間・在宅看護センター佐賀ほっこり 看護師） 岩永 宏美（5 時間・ひらまつ訪問看護ステーション 訪問看護師）		

<科目設定理由>

在宅における看護実践のため、特殊な技術を伴う看護をはじめとした状況別看護について理解する必要がある。

<科目目標>

対象が在宅で療養する意味を理解し、在宅で生活者として安全・安楽に療養することができるよう在宅療養者への日常生活援助について理解する。対象を取り巻く環境を把握し、自ら考え創意工夫を行う看護について理解する。また、特殊な医療、QOLの重視、自己決定の尊重など対象にあった看護援助が提供できる能力を養う。

<講義内容>

- |   |   |    |
|---|---|----|
| 1. 在宅療養者の日常生活援助                               | } | 岩永 |
| ・在宅看護援助の基本、具体的援助内容<br>・リハビリテーションの援助内容、社会資源の活用 |   |    |
| 2. 在宅療養者の症状・状態別の看護                            | } | 村尾 |
| ・脳血管疾患患者の在宅看護                                 |   |    |
| ・認知症患者の在宅看護                                   |   |    |
| ・感染症患者の在宅看護                                   |   |    |
| ・精神障害者の在宅看護                                   | } | 片桐 |
| ・在宅ターミナルケア                                    |   |    |
| ・難病患者の在宅看護                                    | } | 井手 |
| ・小児の在宅看護                                      |   |    |
| 3. 特殊な技術を伴う在宅看護                               |   |    |
| ・CAPD療法                                       | } | 馬場 |
| ・ストーマケア                                       |   |    |
| ・褥瘡ケア   | } | 馬場 |
| ・在宅酸素療法                                       |   |    |
| ・経管栄養   |   |    |
| ・在宅中心静脈栄養                                     |   |    |

- |                       |   |    |
|-----------------------|---|----|
| ・がん患者の痛みの治療法・疼痛コントロール | } | 片桐 |
| ・在宅人工呼吸療法             |   |    |
| 吸引（鼻腔・口腔・気管内）         |   |    |
| 気管切開口のケア              |   |    |

<p>&lt; 講義の進め方 &gt;</p> <p>講義 演習</p>
<p>&lt; 受講要件 &gt;</p> <p>なし</p>
<p>&lt; テキスト &gt;</p> <p>在宅看護論 実践をことばに NOUVELLE HIROKAWA</p>
<p>&lt; 参考文献 &gt;</p> <p>なし</p>
<p>&lt; 評価方法 &gt;</p> <p>各講師の講義終了後、試験で評価し、加重平均する。 片桐：評価なし</p>

分野（領域）	統合分野	科目名	在宅救急看護
単位（時間）	1 単位（30 時間）	開講時期	3 年次 前期
講師名 （時間・所属）	原口 香織（30 時間 日本赤十字社佐賀県支部 指導員 看護師）		
<p>&lt; 科目設定理由 &gt;</p> <p>在宅における救急発生時の対応、看護師としての判断能力、対処する能力を養う必要がある。</p> <p>&lt; 科目目標 &gt;</p> <p>地域・在宅における救急発生時の応急処置の知識及び具体的な方法を学び、看護師としての判断能力を養う。</p> <p>&lt; 講義内容 &gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 応急処置の意義</li> <li>2. 事故者の見方、処置法 <ul style="list-style-type: none"> <li>・包帯法</li> </ul> </li> <li>3. A E D <ul style="list-style-type: none"> <li>・使用方法</li> <li>・注意点など</li> </ul> </li> <li>4. 事故と対策 <ul style="list-style-type: none"> <li>心臓発作 日射病 ガス中毒 打撲傷 服毒 熱傷 骨折</li> <li>食中毒 脳貧血 外傷 毒ヘビ等</li> </ul> </li> </ol>			
<p>&lt; 講義の進め方 &gt;</p> <p>講義 演習</p>			
<p>&lt; 受講要件 &gt;</p> <p>基礎分野、の科目全部を履修しておくこと。</p>			
<p>&lt; テキスト &gt;</p> <p>講師指定（救急蘇生法）のテキスト</p>			
<p>&lt; 参考文献 &gt;</p> <p>なし</p>			
<p>&lt; 評価方法 &gt;</p> <p>講義・演習終了直後、試験・実技で評価する。</p>			

分野（領域）	統合分野	科目名	医療安全の基礎
単位（時間）	1 単位（15 時間）	開講時期	1 年次 前期～後期
講師名 （時間・所属）	西村弘子（15 時間・好生館看護学院看護学科 専任教員 看護師）		
<p>&lt; 科目設定理由 &gt;</p> <p>医療現場ですべての人々の安全を図るため、医療安全に関する基礎的知識を理解する必要がある。</p> <p>&lt; 科目目標 &gt;</p> <p>看護における安全管理の重要性と基礎的知識を理解し、対象や医療関係者全ての安全を守り、事故を防止するために必要な行動をとることができる。</p> <p>&lt; 講義内容 &gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療安全とは</li> <li>2. 事故防止の考え方 <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療事故と看護業務</li> </ul> </li> <li>3. 医療安全とコミュニケーション <ul style="list-style-type: none"> <li>・連絡・報告・相談</li> </ul> </li> <li>4. ヒヤリ・ハット <ul style="list-style-type: none"> <li>・インシデント・アクシデントレポート</li> </ul> </li> <li>5. 危険予知トレーニング</li> </ol>			
<p>&lt; 講義の進め方 &gt;</p> <p>講義</p>			
<p>&lt; 受講要件 &gt;</p> <p>なし</p>			
<p>&lt; テキスト &gt;</p> <p>系統看護学講座 統合分野 医療安全 医学書院</p>			
<p>&lt; 参考文献 &gt;</p> <p>なし</p>			
<p>&lt; 評価方法 &gt;</p> <p>全講義終了後、試験で評価する。</p>			

分野（領域）	統合分野	科目名	医療安全マネジメント・実践
単位（時間）	1 単位（30 時間）	開講時期	3 年次 前期～後期
講師名 （時間・所属）	安永 治郎（6 時間・安永法律事務所 弁護士） 山口 雅子（11 時間・佐賀県医療センター好生館 医療安全部 看護師） 西山 知亨（4 時間・日本光電九州支社 所長） 学院教員（9 時間・好生館看護学院看護学科 専任教員 看護師）		
<p>&lt; 科目設定理由 &gt;</p> <p>安全管理の知識と技術を統合し実践にいかす能力を習得する必要がある。</p> <p>&lt; 科目目標 &gt;</p> <p>法的根拠や倫理のもと、医療事故防止のために、単に技術を習得するだけでなく、手順や技術に潜む危険を認識し、理由や根拠を理解して実践にいかす能力を養う。</p> <p>&lt; 講義内容 &gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療安全におけるリスクマネジメント           <ul style="list-style-type: none"> <li>・リスクマネジメントの基本と方針、国・組織としての安全対策</li> </ul> </li> <li>2. 効率的な医療安全管理           <ul style="list-style-type: none"> <li>・リスクの把握、医療安全管理に必要な技能</li> </ul> </li> <li>3. 医療安全を推進・管理する者に求められる能力と教育研修</li> <li>4. リスクの分析、リスクへの対応・評価</li> <li>5. 医療事故に対する法的問題           <ul style="list-style-type: none"> <li>・法的根拠に基づく医療安全対策</li> </ul> </li> <li>6. 起こりやすい医療事故とその対策           <ul style="list-style-type: none"> <li>・診療の補助業務に伴う事故防止</li> <li>患者に投与する業務における事故防止</li> <li>注射業務</li> <li>注射業務に用いる機器               <ul style="list-style-type: none"> <li>輸液ポンプ・シリンジポンプ：テルモ</li> <li>その他医療機器                   <ul style="list-style-type: none"> <li>人工呼吸器・モニター類など・・・・・・・・・・・・・・・・ 西山</li> <li>輸血業務、内服与薬業務、経管栄養業務</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>・継続中の危険な医療行為の観察・管理における事故防止</li> </ul> </li> </ol>			
<p>&lt; 講義の進め方 &gt;</p> <p>講義</p> <p>演習～テルモ医療機器での危機管理</p>			



<受講要件>

医療安全の基礎の単位を取得しておくこと。

<テキスト>

系統看護学講座 医療安全 医学書院

<参考文献>

なし

<評価方法>

各講師の講義終了後、試験で評価し、加重平均する。

安永、西山：評価なし

分野（領域）	統合分野	科目名	看護の統合と実践
単位（時間）	1 単位（45 時間）	開講時期	3 年次 後期
講師名 （時間・所属）	光野 まゆみ（45 時間・好生館看護学院看護学科 専任教員 看護師）		
<p>&lt; 科目設定理由 &gt;</p> <p>臨床現場では、講義、実習で学んだ基本的な看護の考え方、技術の原理原則、ケアを受ける人への配慮など看護の統合が必要である。限られた時間の中で業務の優先度を考えつつ、多重課題に対応しなければならず、複雑な状況に対応できる基礎的実践能力を養う必要がある。</p> <p>&lt; 科目目標 &gt;</p> <p>多重課題という状況設定のなか、3 年間で培った知識・技術・態度を統合し、臨床現場で看護実践を行う基礎的能力を養う。多重課題・時間切迫などの臨床における状況下で自己を振り返り、自己の課題に気づくことができる。</p> <p>&lt; 講義内容 &gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 多重課題の中での優先順位の考え方 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペーパーシミュレーション</li> </ul> </li> <li>2. 多重課題の中での看護実践 <ul style="list-style-type: none"> <li>・対象の状態把握、問題点の把握、援助方法の選択</li> <li>・その場に合った知識の統合</li> <li>・優先順位の決定の考え方</li> <li>・潜在するリスク・現場に潜むリスクに気づくこと</li> <li>・確実に安全な技術の実践（特に診療の補助技術）</li> <li>・患者への配慮（情意面）</li> </ul> </li> <li>3. 自己の振り返り</li> </ol> <p>&lt; 講義の進め方 &gt;</p> <p>講義 演習</p> <p>&lt; 受講要件 &gt;</p> <p>医療安全の基礎の単位を取得しておくこと。 専門分野 I を受講しておくこと。</p> <p>&lt; テキスト &gt;</p> <p>基礎看護技術 I・II 医学書院 系統看護学講座 医療安全 医学書院</p>			

<参考文献>

臨床看護技術がみえる　メディックメディカ  
系統看護学講座 専門基礎 解剖生理学　医学書院

<評価方法>

技術の到達度の試験で評価、加えてレポートで評価する。

分野（領域）	統合分野	科目名	看護管理
単位（時間）	1 単位（15 時間）	開講時期	3 年次 前期～後期
講師名 （時間・所属）	佐伯 悦子（9 時間・佐賀県医療センター好生館 看護部長 認定看護管理者） 教務主任（6 時間・好生館看護学院 看護師）		
<p>&lt; 科目設定理由 &gt;</p> <p>人的、物的、財的などの資源を維持活用し、チームや組織、システムを動かす看護管理は、管理者だけの役割ではない。看護ケアを提供している全ての看護職者が担っているため、その理解が必要である。</p> <p>&lt; 科目目標 &gt;</p> <p>看護をしくみとして捉え、状況の把握・問題点や改善点の抽出・改善策や対応策を考え、より良い看護の提供を考える必要性を理解する。また、人的・物的・財的資源を有効利用し、維持・活用するためのしくみを学ぶ。チーム医療・看護ケアにおける看護職として、調整とリーダーシップ及びマネジメントができる能力を養う。</p> <p>&lt; 講義内容 &gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護とマネジメント <ul style="list-style-type: none"> <li>・看護管理学とは、マネジメントとは</li> </ul> </li> <li>2. 看護ケアのマネジメント <ul style="list-style-type: none"> <li>・看護基準と看護手順、患者の権利の尊重</li> <li>・安全管理、看護職の協働、他職種との協働</li> <li>・情報の管理、研究成果の活用</li> </ul> </li> <li>3. 看護職のキャリアマネジメント</li> <li>4. 看護サービスのマネジメント <ul style="list-style-type: none"> <li>・組織目的達成・協働のためのマネジメント</li> <li>・情報・技術のマネジメント</li> <li>・サービスの評価</li> </ul> </li> <li>5. マネジメントに必要な知識と技術 <ul style="list-style-type: none"> <li>・組織とマネジメント、リーダーシップとマネジメント</li> <li>・組織の調整・組織と個人</li> </ul> </li> <li>6. 看護を取り巻く諸制度 <ul style="list-style-type: none"> <li>・看護職、看護実践の領域と場、医療制度</li> </ul> </li> <li>7. 看護職の職業倫理</li> </ol>			
<p>&lt; 講義の進め方 &gt;</p> <p>講義</p>			
<p>&lt; 受講要件 &gt;</p> <p>基礎分野の科目を受講しておくこと</p>			

佐伯

学院副島

<テキスト>

系統看護学講座 別巻 看護管理 医学書院

<参考文献>

やさしい看護者の倫理綱領 照林社

看護六法 新日本法規

<評価方法>

講義終了後、試験で評価する。

分野（領域）	統合分野	科目名	災害看護・国際看護
単位（時間）	1 単位（15 時間）	開講時期	3 年次 前期～後期
講師名 （時間・所属）	梅崎 節子（11 時間・純真学園大学 保健医療学部 准教授 看護師） 災害訓練現地講義（4 時間・佐賀空港）		
<p>&lt; 科目設定理由 &gt;</p> <p>災害時における看護実践のため、災害看護の基礎的知識を理解する必要がある。 また、国際社会において、広い視野に基づき、看護師として諸外国と協力するため、国際看護について理解する必要がある。</p> <p>&lt; 科目目標 &gt;</p> <p>災害についての知識を深め、災害医療の概念と災害看護の基本と、発災後の医療ニーズの変化に応じた看護師の役割を理解する。 国際看護に関する知識を深め、医療、福祉、保健、看護の国際協力の必要性を理解する。</p> <p>&lt; 講義内容 &gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 災害の定義</li> <li>2. 災害の種類と特徴</li> <li>3. 災害医療の基本</li> <li>4. 災害看護の基本 <ul style="list-style-type: none"> <li>・災害が対象者及び医療者に対して心身に及ぼす影響</li> <li>・初期情報からアセスメント・トリアージ体制</li> </ul> </li> <li>5. 国際社会の現状</li> <li>6. 国際看護活動の支援を必要とする対象</li> <li>7. 国際看護活動を推進する人や機関</li> <li>8. 国際交流 <ul style="list-style-type: none"> <li>・異文化理解</li> </ul> </li> </ol>			
<p>&lt; 講義の進め方 &gt;</p> <p>講義 演習・現地講義～佐賀空港での災害訓練（4 時間）</p>			
<p>&lt; 受講要件 &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・看護学概論の単位を取得しておくこと</li> <li>・在宅看護概論、在宅看護の基礎を受講しておくこと</li> </ul>			
<p>&lt; テキスト &gt;</p> <p>系統看護学講座 統合分野 災害看護学・国際看護学 医学書院</p>			
<p>&lt; 参考文献 &gt;</p> <p>系統看護学講座 専門 I 看護学概論 医学書院</p>			
<p>&lt; 評価方法 &gt;</p> <p>講義終了後、試験で評価する。</p>			